

私たちの

なみえ町議会

あなたと町政をおすぶ
ぎかい広報紙

○発行／福島県浪江町議会
○編集／議会報編集特別委員会

2004・2・1
No.
103



今が旬! 請戸の白魚

12月定例会

新町長に町村合併を問う

視点・論点	イラク派兵計画・熱い論戦!	6
一般質問		7～14
委員会報告・町民の声		15～18

新町長 行政報告



横山町長は行政報告の中で、
透明性や先進性、さらには独自
性を基本に次の目標を掲げま
した。

●開かれた 効率的な町政執行

町民参加は行政の大原則で
あり、進んで情報の公開、新
しい時代に向けて住民ニーズ
に的確に応えるための構造改
革に着手する。

●地域経済の活性化 と雇用の安定

原発立地の問題は、用地問
題だけは決着をつけた上で、
次の段階に臨みたい。観光資
源の開発は常磐道延伸に備え
準備をしていく。観光ルート
を開発し地場産品の紹介のた
め、観光協会の強化を図る。

●自然との共生

未来に向けてのキーワード
と受けとめ、まちの豊かな自
然、山、川、海と温暖な気候
この自然を大切に守り有効活

用し、まずは資源循環型社会
を推進し、ボランティア活動
等に対し支援をしていく。

●少子高齢化

●豊かな暮らしと 長寿社会の形成

子育て支援の環境整備、長
寿を実感できるための生き甲
斐づくりを講じる。また、特
別養護老人施設や介護保険施
設などの充実を図り、安心し
て老後を暮らせるよう努める。

●まちづくりは ひとつづくり

●教育・文化・ スポーツの振興

町の将来を担う、青少年の
健全育成は重要課題であり、
まず、生徒たちが安全に学校

に通える環境が必要であり、
学校内と通学路の安全対策を
強化する。スポーツ施設整備
についても町民の要望にそつ
た形で実現に努める。

●男女共同参画社会

時代の要請と認識し、基本
的には、全ての施策を男女平
等の視点で行う。また、行政
に係る女性の登用につきまし
ては、積極的な登用を図る。

基本的には、これまでのす
べての事業を精査し、より良
い形で推進していく。

「万機公論に決すべし」の
大原則を忘れることなく、意
欲的に町政執行に取り組んで
参りますと、横山町長は所信
を表明されました。

平成 15 年第 7 回定例会が 12 月 18 日から 25 日までの 8 日間の日程で開催されました。

15 年度一般会計補正予算のほか、浪江町・小高町合併協議会の廃止案など追加 4 件を含む 13 議案が審議され、すべて原案どおり可決しました。

請願 1 件、意見書 1 件を関係機関に提出しました。

主な議案

住民意向型の補正予算になるのか

補正予算は町民密着を求める

合併協議会の支出は

質問

任意合併協議会について 8 60 万 6 千円の予算の執行状況はどれくらいか。

答弁

任意合併協議会経費 273 万 3 千円は小高町と同額を精算になります。

質問

8 月 20 日の臨時議会で法定協議会予算 2020 万円程議決したが合併調査推進のためにどれくらい使われたのか。

答弁

合併の経費は 460 万円程の支出で県補助金充当がほとんどで浪江・小高町は約 10 万円以内と推測します。

冷害対策の上積みは

質問

冷害対策事業費 320 万円の補正が出されていますが今後再生産の支援上積みを考えていくのか。

答弁

冷害について精査を基本に必要なものは手当をしていきます。

児童クラブの整備と拡充は

質問

児童クラブの整備工事費 50 万円の内容は。

答弁

浪小の 2 つの教室を容易に管理できる通路の改修です。

質問

他地区でも児童クラブの希望がある。設置をどうされるのか。

答弁

他地区について学校別に 1・2 年生のアンケート集計で検討させていただきます。

精神障害者施設「結いの里」の設置内容は

質問

榎葉町に設置されます障害者地域生活支援センター「結いの里」の負担金と施設運営はどの様なものか。

答弁

負担金は 121 万 9 千円で、家庭・職業生活支援人数利用見込み 400 人・生活相談利用見込み 300 人・地域交流活動推進事業等を見込み総延べ利用者数 1000 人の事業です。

ふれあいセンター内に相談窓口を設置します。

敬老祝い金の見直しは

質問

敬老祝金について今後見直しをすべきでないか。

答弁

米寿、白寿の祝金支給の意見もありますので、検討していきます。

○一般会計補正予算について

平成 15 年度一般会計は、6420 万円を追加し、総額 77 億 176 万 4 千円としました。

主な内容は冷害対策費に 320 万円、重度心身障害者医療費に 860 万円、老人医療給付事業費に 1992 万円などである。

(賛成多数で可決)

高齢者住宅支援のお知らせ

質問

高齢者住宅改造資金利子補給金融資は何名の要望があるのか。

答弁

要望は1件限度額500万円、償還期間は10年間です。制度融資受け入れについて広報誌等でPRして行きます。

JR代替バス
購入決まる

○生活に密着した公共交通バスとして町民皆様の足が確保されます。

生活バス運行事業として、JR代替バス2台を指名競争入札により、有限会社浪江自動車整備工場と1144万5千円で契約しました。

(全会一致で可決)

質問

JR代替バスの購入は大変評価される事業、地域にとつ

て唯一の公共交通、利用者の利便性を考えたダイヤの編成が必要、どうゆうダイヤ編成をするのか確認したい。

答弁

ダイヤの編成については、現在協議中であります。

当面は、4月1日運行確保に全力を挙げ、その後いろんな意見を聞いてダイヤの空いている時間帯に多目的利用ができないかどうか検討してまいります。



4月から町営バスが運行されます

○浪江町内3中学校に情報教育の一環としてパソコン71台、プロジェクター7台を指

名競争入札により、有限会社アクトと1226万4千円で契約しました。

(全会一致で可決)

○国民健康保険事業特別会計
補正予算について

平成15年度国保特別会計は、6675万円追加し総額は20億5142万円となりました。主に交付金の決定に伴う補正で、歳入では国庫支出金、医療給付費交付金の追加による増額補正である。歳出では、保険給付費の補正増等である。

(全会一致で可決)

○老人保健特別会計補正予算
について

平成15年度老人保健特別会計は、医療諸費の不足が見込まれるため補正するもので1992万円を追加し、総額22億9027万円となりました。

(全会一致で可決)

○介護保険事業特別会計補正
予算について

平成15年度介護保険事業特別会計は、システム開発経費の国庫補助金で保険者機能強化

特別対策給付金として149万円の補正増で総額9億6899万円となりました。

(全会一致で可決)

○公共下水道事業特別会計補
正予算について

平成15年度公共下水道事業特別会計は、1860万円を追加し、総額8億6438万円となりました。

(全会一致で可決)

○水道事業会計補正予算につ
いて

平成15年度収益的支出で450万円増額し、総額3億3381万円となりました。

(全会一致で可決)

条例の改正

○特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について

公職選挙法の一部を改正する法律により、期日前投票制度が創設されたため、期日

前投票所の投票管理者及び投票立会人の報酬を追加するものである。

(全会一致で可決)

○浪江町税特別措置条例の一
部改正について

原子力発電所施設等立地地域の振興に関する特別措置法により、立地地域の指定を受け、地方税法の不均一課税の措置が講ぜられたための改正である。

(賛成多数で可決)

人事

○教育委員会委員に

山田 一郎 氏

を選任することについて賛成多数で同意しました。

○人権擁護委員に

横山 周豊 氏

を選任することに全会一致で決しました。

採 択

皆さんから出された請願

○福島県立浜高等技術専門校の鉄工学科増設推進について請願
 [請願者] 相双鉄工業協同組合
 理事長 渡部 義明

議員発議の意見書

○福島県立浜高等技術専門校に鉄工学科の増設を求める意見書
 [提出先] 福島県知事

**小高町との
合併協議会 急変**

浪江町・小高町合併協議会廃止

浪江町・小高町合併協議会の審議結果及び小高町議会における協議会廃止議案の可決により、実質的に協議会が機能しなくなったため、浪江町・小高町合併協議会を廃止することについて全会一致で可決されました。

**11月臨時会
11月17日開会**

**冷害被災者に対する
町民税・国保税を減免**

11月臨時会（第6回浪江町議会臨時会）は町長から冷害による被災者救済のための町民税・国保税の減免条例、人事院勧告に基づく諸手当の改正に伴う条例の一部改正など13の議案が提出され、原案どおり承認・可決されました。

《専決処分の承認》

○平成15年度の冷害による被災者に対する町民税及び国民健康保険税の減免に関する条例の制定について

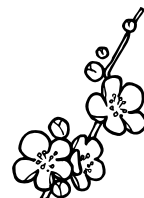
本年の冷害による農作物の減収に伴う被災者を救済するため、町民税及び国民健康保険税の減免を講ずる。

○平成15年度浪江町一般会計補正予算（第4号）は衆議院選挙の総選挙費に係る必要経費を専決したものであります。

《条例・補正予算》

町長等の特別職・議会議員の期末手当の引き下げ・職員の給与と期末手当引き下げの条例の改正が行われ、総額で4,050万円の減額補正が行われました。（賛成多数で可決）

合計所得金額	減免の割合
300万円以下であるとき	全部
400万円以下であるとき	10分の8
550万円以下であるとき	10分の6
750万円以下であるとき	10分の4
750万円を超えるとき	10分の2



イラク派兵計画は直ちに中止を

請願・相双民主商工会 陳情・新日本婦人の会浪江支部

11月29日、日本人外交官2人がイラクで殺害。政府は12月9日自衛隊派遣の基本計画を決定しました。その中止を求める意見書提出の請願書と陳情書が出され、採択・不採択をめぐる熱い論戦が交わされました。二つの議案とも不採択とする賛成多数(賛成13名、反対7名、欠席1名)で否決されました。おもな論点を報告いたします。

請願・陳情とも不採択

論点1

なぜ自衛隊をイラクに

派遣賛成 人道・復興支援のため

派遣は必要

派遣反対 戦争放棄の憲法九条を

いかせ

《賛成》 ●日本は国際社会の一員として復興に取り組むことが大切。復興支援から手を引けば混乱を狙っている勢力の思うつぼになる。

●イラク派遣に関しては、国連加盟35カ国は支援活動を行っている。訓練された自衛隊が行っているのが当然な責務と考える。

《反対》 前の戦争で苦しい経験をしてきた。憲法の戦争放棄を考えてほしい。憲法9条がなし崩しにされ、今後紛争地域に自衛隊が出てゆけば、国の安全・安心が重大な危機にさらされる。

論点2

日本の安全・安心とは

派遣反対 国連決議もない。米国

追従でよいのか。

派遣賛成 アメリカの援護を信頼

するしかない。

《反対》 イラク戦争は国連決議もないまま、アメリカ、イギリスが戦争を仕掛けた。アメリカは国連以上の力を持っている。だからといってアメリカに追従してこれから先も日本が安全を保障される保証はない。

《賛成》 安全保障条約を結んでいる以上はアメリカが援護してくれる。それを信頼するしかないと考ええる。

論点3

自衛隊の「派兵」か「派遣」か

《不採択の意見》 請願の中に「派兵」とあり趣旨がくみとれない。だから不採択とした。

《採択の意見》 自衛隊がイラクに持ち込む武器は無反動砲と軽装甲車、装輪装甲車です。イラクは戦闘状態。自衛隊は重装備で米英軍を支援する。本質は「派兵」である。

論点4

国が決めたことだから

《不採択の意見》 我々が頑張ったところで止められない。

《採択の意見》 それでは戦前の

繰り返し。

《派遣賛成》 ここまできたら空自先遣隊50人が行くところまできている。いくら頑張ったところで止められない。

《派遣反対》 例え声が小さくても大義も、道理もない戦争に国民一人一人が発言してゆくことが大事。仕方ないと認めてしまつては戦前の繰り返しになる。

論点5

解決の道は

《派遣賛成》 イラクは安全であるか、現在のテロ活動を見てもなかなか大変。

日本はどうしたらよいのか、イラク復興には、自衛隊にいていただいでやっていただくといい結論に達したわけです。

《派遣反対》 イラクの混乱とテロの増幅は何故おきているのか、米英軍の占領にある。憲法との立場、国連憲章の立場で明快な判断を示すべきである。いま、国連決議を最優先させイラクから米英軍が撤退した中で、国連指導で支援できる状態をつくることを最大の目標にすべきである。

町政を問う

一般質問

— 質問通告事項 —

●橋爪光雄議員

- 1 安心、安全のまちづくりの強化を図れ
- 2 観光名所の整備を図れ

●紺野榮重議員

- 1 合併問題
- 2 財政問題

●鈴木辰行議員

- 1 5万人田園都市について
- 2 農業振興計画について
- 3 総合病院誘致について

●小黒敬三議員

- 1 合併について
- 2 事業の継承について
- 3 町商工観光の充実を計れ

●馬場 績議員

- 1 町村合併について
- 2 冷害対策と農政問題について
- 3 原発行政について
- 4 国保問題について
- 5 子育て、保険、福祉行政について
- 6 JR代替バス運行について
- 7 国道、町道の整備促進について
- 8 イラク派兵について

●佐々木 英 夫 議員

- 1 新町長の抱負をお聞かせください
- 2 教育基本法の改正について

●佐々木 茂 夫 議員

- 1 浪江・小高原原子力発電所建設計画について

《一般質問の掲載方法》

議会だよりに掲載する一般質問の内容は、紙面の関係上、1議員3件までの質問、答弁をそれぞれ1,000字以内に要約しておりますので、ご了承願います。

安心、安全のまちづくりの強化を図れ

橋爪 光雄 議員



では現在、現地を確認しながら積極的に進めております。

質問

子供110番の家の家庭状況も変わってきております。対応できない家もある見直し計画はないのか。

答弁

見直しについては各学校単位で行っております。今年度中に全学校で見直しを行う予定です。

質問

児童生徒に対して不審者による声かけ事案が発生しております。児童生徒の生命を守るために防犯ブザーを全児童に携帯させる計画はないのか。

答弁

今回児童生徒へ防犯ブザーを配布したいということで、今回提案されました補正予算に予算計上しているところがあります。

質問

浪江地域安全パトロール隊及び浪江地区防犯団体連合会の活動状況と、どのような結果なのか。

答弁

地域安全パトロール隊は、発足以来地域安全推進のため15名の隊員により4班編成とし、各班月3回、延べ12回になります。浪江警察署と連携を図り声かけ事案や車上荒し等の発生情報を得ながら、重点地域を中心にパトロールを実施して成果をあげております。

質問

県立自然公園高瀬川渓谷等、数多くの観光名所があります。しかし、各名所は遊歩道、落下防止の手摺、ガードレール等が整備されていない、整備計画はないのか。

答弁

観光資源の開発を大きな目玉に掲げております。ガイドレールの整備、待避所、駐車場、トイレをきれいにする。高瀬側渓谷いわゆる落合・浪江線の整備を考えてまいります。

質問

観光案内所を設置する考えはないのか。

答弁

考えておりませんが、町の観光マップ等の充実を密にしながら関係団体と連携を密にし、PRに努めていきたいと考えております。

質問

都市部を中心に増大する犯罪と検挙率の低下、防犯対策は大きな転換点を迎えています。町としても、防犯対策を見直し町民の皆さんを守る責務があります。通学路の防犯灯はどのような点検整備をしているのか、必要な場所に防犯灯が設置されていない、増設計画はあるのか。

答弁

防犯灯の点検整備につきましては、行政区長、住民等から通報があった場合にはその都度現地を調査し、交換、修繕等を行っています。増設につい



通学路は明るく！

5万人田園都市構想は？

鈴木 辰行 議員



質問

新町長がマニフェストとしてくださった5万人田園都市構想は、この地域の将来を見据えた素晴らしい構想であり、農林漁業を基盤としたまちづくりを指すものであると理解しております。

今後、どのような構想を持つておられるのか。また、合併のためのアンケート調査はいつ頃実施する考えでおられるのか。

答弁

町の基幹産業は農業であり、漁業を含めた第一次産業の振興をなくして町の発展はない

と考えております。しかし国の農業政策の転換に伴い今後検討していくこととなります。

住民アンケートについては他町村長と話し合い、町民の方々の判断材料を提供し得る環境の中で実施すべきだと思っております。

企業誘致を図れ

質問

都市構想には企業の誘致は必要不可欠と考えるが。

答弁

長引く不景気で来てくれる企業は非常に難しいと思います。しかし、高速・交通体系が徐々に整い、この地域の優位性をアピールできれば、不可能でないと考えております。

農業振興政策は？

質問

これからの農業振興をどのように進め確立していく考えか、地産地消をどのように啓蒙されるのか、また町産業を

活性化するための産業振興とタツフを早急につくるべきと考えるが。

答弁

農業の振興は極めて重要であります。平成16年度から新たな米政策が展開される地域水田農業ビジョンを決め、産地づくり対策を図るとともに、地域特性や実情にあった米の生産調整の推進、多様な作物の産地づくり、水田農業の構造改革を踏まえて担い手を中心にした売れる米づくりを目指します。地産地消についての啓蒙、議論を深めてい

総合病院を誘致せよ

質問

町民からの要望で総合病院の誘致はかなり多くの方々が願っております。病院建設と医療機材を含めると膨大な費用負担で町の財政が圧迫されかねませんが、町民のために検討することはできませんか。

答弁

総合病院のない現在、病院に通うための町バスの設置はできないのか。

総合病院の誘致はかなり難しいと考えています。他市町村までの町バス運行については、多方面から検討したいと思っております。



転作田を利用したイチゴ栽培

浪江・小高町村合併 白紙撤回の根本を問う

馬場 績議員



町民アンケートすらやらない強引な合併計画の破たんではないのか

質問

前町長は町長選の結果を「合併の枠組み」に問題をすり替え、記者会見で合併計画を白紙撤回された。

①町民不在の合併計画と考えているのか。否か。

②町村合併と町民合意はどうあるべきと考えているのか。

答弁

①住民の意志確認が不十分と

判断しております。

②今後は、住民の意志確認を行った上で、新たな取り組みを考えております。

質問

12月の全国町村長大会で、国に対し、「強制合併は行わない」ことを求めた決議をどのように認識されているか。

答弁

住民に身近な市町村の存続は、住民自身が判断すべきであり、強制すべきではないという点では同感です。

冷害の追加対策と新しい減反政策を問う

質問

被害状況と対策は。

答弁

水稲が3億5000万円、

飼料作物5500万円、梨は800万円。対策としてイモ千病、種子購入支援、越冬飼料の確保、梨樹勢回復対策、葉タバコ乾燥支援、災害資金利子補給などです。

質問

資料をお配りする。飯館村の冷害対策は災害、生産、就業、生活対策等7542万円（浪江町では1320万円。）飯館村と比べても不十分、町は地域農業を支える責任と役割がある。

答弁

対策会議で十分審議し、実施しております。

質問

国の「米改革」では、現在の「とも補償」がなくなり減反奨励金制度が大きく変わる。水田農業ビジョンをつくるといわれるが、それで農家対策はどうなるのか。



お兄さん、お姉さんと楽しく勉強
(浪江小児童クラブ)

答弁

とも補償に代わる助成を考えます。担い手は6割を目指します。中山間においては直接支払制度との連携を考えております。

答弁

津島地域も含めて意向調査中です。父兄に対するご負担、ボランティアのお願いもございませう。次年度に向けて前向きに対応したいと考えております。

質問

児童クラブ・保育所入所の改善は

質問

子育て支援は男女平等社会参加の重要な施策。浪江のように児童クラブがあれば、働くお母さん方を励ますことができる。改善、充実をどう進めるのか。

質問

大熊町では、①親が家庭内で家事以外の仕事している場合

②親が求職中の場合

保育所に入所申込みできる。浪江町でも改善されるか。

答弁

求職証明書を職安からいただければ入所させている事例もございませう。

合併問題・財政問題を問う

紺野 榮重 議員



合併に対する 基本は！

質問
12月4日両町長による合併協議の白紙撤回が表明されました。小高との合併に対しての含みを残せなかったのか残念です。合併問題振り出しに戻る形になりましたが、町長の合併に対する基本的な考え方を伺います。

答弁
浪江町の将来を決める重要な問題です。住民の意志を問いつながり慎重に判断、枠組み

については、双葉郡との合併が自然でありその枠から検討したい、合併特例法期限までの合併にはとられない。

質問
新町長は枠組みについて、総合審議会でご答申された4町1村に働きかける。ここに5万人田園都市構想があると思います。また、合併がさけて通れないとするならば、合併特例法の期限17年3月を目標とすべきと思うが。

答弁
総合審議会の答申にもあった通り、浪江町を中心とした双葉町、葛尾村、大熊町、小高町との合併が望ましい。特例債の適用期限内の合併は魅力ではあるが、住民の意志をしっかり確認して慎重に検討したい。

質問
合併に対するアンケート、住民投票の件ですが、町民の

意志を反映するために早めにするべきだと思います。どのような方法で町民の民意を反映するのか。

答弁
内容は検討中ですが、合併の是非、枠組み、法定期限内の合併か否かも含めて把握してまいりたいと考えております。

財政に対する 基本は！

質問

浪江町はかつて財政面で厳しい状況にありました。現在は80町村の中ではまずは上位であります。この位置付けをどう考えられるか。私としては県内においても上位を維持し、健全財政にすべきだと思います。どのような心構えで望まれますか。

答弁

厳しい状況にありますが、事務事業の見直し、投資的経費の厳選、事業の必要性を十分検討しながら健全財政を堅持し、最小の経費で最大の効果を上げることが基本的な考え方とします。健全財政については、前任者の努力によるところも非常に大きい。その行政手腕を評価するところであります。

答弁

線の拡幅、国、県の財政が逼迫する中で今後の計画を伺います。
継続事業の見直しは、原則としてすべての事業を精査して、効率的な事業執行を行うこととし、投資的事業の継続についても必要性、緊急性を判断し、実施してまいりたいと思います。114号街中の拡幅はこれまでの計画どおり進めてまいりたいと思います。

質問
継続事業の推進で114号

白紙撤回を報じた各紙

中心市街地の活性化と 観光行政の確立を急げ

小黒 敬三 議員



合併について

質問

- ①法定協議会が法的にはまだ続いているが、今後の対応は。
- ②合併特例法の期日である平成17年3月までの合併を目指すのか、またはそれ以降となるのか。
- ③郡内の各町村で、郡全体の合併であれば議論すべきとの声も聞かれるが、郡内の合併についてどう考えるか。

答弁

- ①片方が廃止を決めているため、一旦閉じた上で、新たにということが現実的かと考えます。
- ②期日にとらわれることなく柔軟に対応してまいります。
- ③住民の意向を確認した上で関係町村と協議しながら合意できれば検討に入りたいと考えております。

事業の継続について

質問

- ①なみえeーまちタクシー事業は、目標人数の1日平均120人の利用者を超え、福祉と商工振興に役立っています。来年以降も補助金の継続をする考えはあるか。



町民に親しまれている「ぐるりんこ」

- ②現在、町と商工会でまちづくり株式会社をつくるため、中心市街地基本計画とTMO構想づくりを同時に進めています。来年度の

町の取り組みは。

- ③南工業団地の用地買収や貯木場跡地利用など事業の見直しの考えはあるか。

答弁

- ①今後とも商工会と協議しながら、運行に必要な補助金を確保したいと考えております。
- ②町民並びに商工業者の意見を反映した計画を作成し、活性化につながる事業を推

進みます。

- ③基本的にはすべての事業について精査を行い、着手後10年を経過したものは、公共事業評価委員会で検討します。一つ一つ毎年やっっていく必要があると考えます。

町商工観光の 充実を図れ

質問

地元観光資源の活用を行政主導で行い、観光の経済波及効果を町内に落とすため、産業振興課内に商工観光係を設け、体系的な観光戦略と長期的な計画を立てる考えはあるか。

答弁

町内観光団体と協議し、年間を通じて安定した誘客を図るため、新年度までに町観光協会を設立し、体系的観光施策の計画に取り組みます。

新町長の抱負と 教育基本法の改正について

佐々木英夫 議員



質問

新町長の抱負と進め方について聞きたい。

- ① 浪江・小高原子力発電所建設の進め方について
- ② 貯木場跡地利用計画について
- ③ 114号拡幅についての進め方
- ④ 町村合併の考え方について
- ⑤ 町商店街の活性化について
- ⑥ 教育文化の進め方について

答弁

① 町の活性化を図る上では、なくてはならないと考えるので、今後も早期実現に向けて支援していく考えです。

② 町民のニーズに合わせて文化センターも含めて検討するのが妥当と考えるので慎重に対処します。

③ 中心市街地活性化基本計画及びTMO構想を策定中であり、関係団体や町民の意見をいただきながら実効性のある計画とともに、計画に沿って順次整備していく考えです。

④ 住民の意志を問いながら慎重に判断していきたいと考えています。枠組みについては、双葉郡との合併が自然であり、その枠から検討していきたい。財政的優遇措置のみにとらわれ、道を誤らないようにします。

⑤ 市街地で開催されているイベント等各種事業についても関係団体等と十分協議をし、活性化につながる方策を検討し、また、観光協会

⑥ 教育は、社会の次代の担い手を育てる重要な営みである

の強化、観光資源を開発して地域の活性化に寄与していく考えです。

るが、当町の児童生徒は大きな非行問題もなく、学力低下も他に負けない力が育ちつつあり、今後は教育委員会と十分連携し、必要な教育施策を講じていきます。文化行政についても、大変重要視しており、教育委員会と連携を深め、町民の間に文化の根がますます育つよう施策を講じていく考えです。

教育基本法について

質問

教育基本法について改正の声があるが何故か。

答弁

教育基本法が制定され多くの時間が経過している中で、社会も非常に大きく変化しています。新しい時代にふさわしい教育基本法が必要としている現行法の全文に定める基本的な考え方は引き続き継承し、教育による人格の形成を目指し、心身ともに健康な国民の育成を期して行おうと言う現行法の基本理念を継承する中で、8点程度改正する必要があるということで、文部科学省では検討中であると承知しています。



整備がすすむ 114号線都市計画事業

浪江・小高原原子力発電所 建設計画の支援促進を問う

佐々木茂夫 議員



珠洲原発計画凍結 へ・他の原発へ波 及も

質問

平成15年12月に電力会社が石川県珠洲市に計画凍結を申し入れる。需要の伸び悩みと自由化の拡大でコスト削減が迫られている、過去の原発計画は大きな負担になり職員を張り付け、毎年億単位の資金を投じて理解を求めてきたが、用地取得がはかどらず、稼働開始時期を毎年のように先送りしてきた。実



136万5千㎡（田・畑・山林・原野・宅地・その他等）の用地に建設計画がされて来ました。

現性の乏しい原発計画に巨額の資金をかけられる時代ではなくなった。浪江町の長きに渡る誘致支援対策内容と石川県珠洲市で原発計画

の凍結を地元自治体に申し入れた事による連鎖はあるのか伺います。

《昭和42年から主な誘致活動内容》

昭和42年5月	浪江町議会は原子力発電所誘致を決議
昭和43年1月	東北電力は浪江・小高原原子力発電所建設計画を発表
昭和44年2月	浪江町議会在「原発対策特別委員会」を設置
昭和45年3月	東北電力は福島県に対し、立地協力を要請 福島県が了承
5月	東北電力と(財)福島県開発公社は用地取得委託契約締結
昭和46年4月	小高町浦尻地区が原子力発電促進を議決
昭和48年1月	福島県開発公社は浪江事務所を設置
2月	東北電力は浪江・小高地点原子力準備事務所を設置
10月	小高町議会在原子力発電所誘致を議決
昭和51年5月	気象観測塔が完成して観測を開始
昭和52年4月	浪江・小高地点原発調整会議を設置
6月	国は浪江・小高地点を要対策重要電源に指定
7月	北棚塩原発対策委員会が発足
昭和55年9月	小高町議会在「原発対策特別委員会」を設置
昭和56年8月	南棚塩地区に原発対策協議会が発足
昭和58年1月	南棚塩地区・北棚塩地区・浦尻地区の合同委員会が発足
昭和60年1月	棚塩地区内に「墓地移転対策委員会」が発足
昭和61年1月	棚塩の共同墓地移転先が賛成多数で棚塩の弥平に決定
平成5年4月	棚塩原発対策協議会を解散し、棚塩地権者会が発足
8月	浦尻・北棚塩・南棚塩地区の3地区合同委員会が発足
平成6年8月	東北電力は3地区合同委員会に土地買収補償基準等を提示
平成7年2月	東北電力と3地区合同委員会は土地買収補償基準等を合意
平成8年4月	共同墓地が浪江町に保存登記される
9月	大規模土地取引事前指導申出書を県に提出
12月	大規模土地取引事前指導申出書に県が容認通知を受ける
平成9年1月	土地売買等届け出書の届出始まる
1月	土地売買等届け出書の不勒告を受け、土地売買契約始まる

町の凍結を地元自治体に申し入れた事による連鎖はあるのか伺います。

答弁
町は東北電力とともに早期着工を目指し促進事業を展開し用地買収の基礎となる土地台帳等の整備等と土地買収に係る条件整備の促進を補助事業等を活用し努めてきました。支援対策は専属担当部局を設け積極的に誘致促進を図

計画凍結の影響は
ありません

り用地交渉も90%を超える同意を得たことから、主力は東北電力に移し浪江町は企画調整課の一業務として支援しています。残る数名の用地交渉が難航していることから計画延期となっておりますが、早い解決を期待し、支援してまいりたいと思います。珠洲原発凍結の連鎖については影響ないと考えております。

委員会報告

◆議会報編集特別委員会◆

1 視察研修日

平成15年8月21日～22日

3 研修目的

議会報の編集に関すること

2 視察研修地

宮城県田尻町議会
山形県白鷹町議会

4 研修内容

(1)宮城県田尻町議会
①いかに「読みやすく、分かりやすく、親しまれる議会広報をつくるか」を編集の



田尻町議会



白鷹町議会

基本方針とし、議会と町民のパイプ役を果たす編集に心がけている。

②議会報の文体は「です」「ます」調で記事を統一し、写真は記事内容にあったものができるだけ大きく掲載、議案審議も主な質疑と答弁、議員の名前を載せている。

③議会報に掲載する一般質問は、議員2件までの質問、答弁をそれぞれ200字（合計800字）以内に要約し、発行時期に合わせた配色にするなど読みやすさ、親しみやすさに心がけている。

④「たじり議会だより」は宮城県議会広報選考会で特選、町村議会広報全国コンクールで過去4年連続入選するなど、全国でも高い評価を得ている編集委員会を研修することができ、大変有意義でした。

⑤発行まで5回の編集会議のほかに、編集長と委員の記事づくりの負担をどう軽減するか。また、議案の審議過程を「もっと強調していきたい」など町議会の役割を「議会だより」にいかに反映させるか、問題点を明確にして編集委員会活動をすすめており、私たちも意欲をかきたてられる研修となりました。

①山形県白鷹町議会
②山形県白鷹町議会
③年4回定例議会ごとに発行し、発行日が定例会終了日から1ヵ月位というから、浪江町議会「議会広報紙」と同じ

④「読みやすく」編集するため「見出し」は大胆で読みやすい見出しと、ポイントをついた見出しを「なるべく多く」使っている。

⑤一般質問は質問議員1人当たり1ページで、答弁合わせて1106字以内。文章はなるべく短く、読者に理解されやすい文章を心がけている。

④企画記事で注目されたのは町政の話題に迫る「町政を斬る」「1年間の町の10大ニュース」「議員の主張、地方発 天下国家を語る」など議会広報紙としての特色を大いに発揮している。

◆ 国道114号拡幅促進 特別委員会 ◆

1 視察研修日

平成15年11月11日～12日

2 視察研修地

茨城県馬頭町

3 研修目的

● 道路整備の概要及び街並み整備の概要について

● 公的施設と道路整備関係について

● 街並み景観づくりについて

4 研修内容

(1) 道路整備と街並み整備の概要について

地域の顔でもある中心市街地に息吹を吹き込み、活性化を促すため、街並みを短期間で整備をした。

● 町道室町上郷地線の電線地中化を平成12～14年度にかけて整備した。

● 県単ひとにやさしいまちづくり支援事業（県1／3・町1／3・所有者1／3）

道路と歩道の段差解消整備、店の自動扉の整備、トイレの解放を実施した。

(2) 公的施設と道路整備について

● 国道293号特殊改良3種事業（田町交差点～室町交差点）

● 国道293号が水戸から塩原に行く物流車の深夜の騒音対策で街中を直角に折れる道路を通さないバイパス道路計画が平成11年度採択された。電線地中化・橋梁工事が平成17年度完了予定で、バイパス道路に地元商店の出店計画はありません。

● その道路沿に江戸時代の浮世絵界で業績をのこした歌川広重美術館が建設され、

多くの観覧者が訪れている。

● 道の駅「ばとう」は、道路利用者と地域を結ぶ、ふれあいステーションで馬頭町の新鮮野菜や果物、特産品が販売されている。地元の気候風土に育まれた素材を生かし、まごころ込めた食事も味わえる。

(3) 街並み景観づくりについて

● 国庫補助街並み環境整備事業

賑わいの道づくり事業推進委員会と賑わいの道づくり事業推進班会議等で検討を重ねた。

● 電線地下埋設は平成11年度東京電力・NTT・有線の各企業と調整を進め国庫交付金対象となった。

(4) 浪江町でも生かしたい研修の成果

● 電線地下埋設に伴う施工は共同溝から各戸までの工事費は企業が、引き込み線は町が負担したこと。

● 路側帯を多目的に利用できるようにしたこと。

● 敷石は地元産の石を使用、清掃は役場職員が実施していること。

● 敷石は地元産の石を使用、清掃は役場職員が実施していること。

● 敷石は地元産の石を使用、清掃は役場職員が実施していること。



地元産の石を利用した景観づくり



新人議員の紹介

11月30日に行われた町議会補欠選挙において当選されました
3名の議員を紹介します。



田尻良作
(53才)

- ・無所属
- ・議席番号 3番
- ・所属常任委員会
産業建設常任委員会
- ・住所 浪江町大字末森字
入合田 115 番地
- ・職業 農業



佐藤文子
(52才)

- ・無所属
- ・議席番号 2番
- ・所属常任委員会
文教厚生常任委員会
- ・住所 浪江町大字川添字
中上ノ原 226 番地
- ・職業 無職



佐々木恵寿
(46才)

- ・無所属
- ・議席番号 1番
- ・所属常任委員会
総務常任委員会
- ・住所 浪江町大字権現堂
字新町 79 番地
- ・職業 団体職員

議会活動の近況

【10月】

- 1日 茨城県千代田町議会視察研修来町
- 8日 議会報編集特別委員会
- 8～10日 議会運営委員会研修
- 17日 町村議会議員研修
- 20日 議会報編集特別委員
- 23日 広域圏組合総務委員会
- 24日 木戸ダム定礎式
- 28～30日 広域圏組合総務委員会行政視察

【11月】

- 3日 浪江町功労者表彰式
- 4～6日 広域圏組合議会運営委員会行政視察
- 10日 栃木県吉岡町議会視察研修来町
双葉地方電源地域政策協議会
- 11～12日 国道114号拡幅促進特別委員会研修
- 11日 広域圏保健衛生委員会
- 12日 町村議会広報研修会

- 17日 第6回浪江町議会臨時会
広域圏消防厚生委員会
- 19日 総務常任委員会福島市視察研修
- 20日 町村議会議長全国大会
- 21日 広域圏総務委員会
広域圏議会運営委員会
- 25～26日 第4回原発サミット
- 27日 広域圏組合議会定例会

【12月】

- 3日 宮城県米山町議会視察研修来町
- 4日 全員協議会
(町長記者会見について協議)
- 9日 双葉地方電源地域政策協議会
町村合併調査特別委員会
- 10日 双葉地方町村議会議長会
- 18～25日 12月定例議会
各常任委員会・議会報編集特別委員会



水産物の消費拡大策を

請戸海産商協同組合

組合長 柴 孝一



請戸海産商協同組合は、浪江町の表玄関と称される請戸漁港に水揚げされる

海の幸を地元消費と併せ、遠くは大阪、名古屋、また、東京中央市場まで消費拡大に努めてきました。

更には、新鮮で安価な魚介類の供給をということから、浪江町、相馬双葉漁業協同組合請戸支所の協力のもと、毎月第3土曜日午後3時より夕市を開催し消費拡大を図っているところであります。

昨年は、コラッセ福島及び会津若松の地場産品フェアに、県、町の協力のもと参加、コラッセ福島では海産物とホッキ貝の鉄板焼、カニのみそ汁、会津若松の地場産品フェアにおいては、

イクラ井とカニ汁の試食販売、いずれも完売しお客様に大変喜ばれ、今度いつ来るのと聞かれ返事に困った次第です。特にコラッセ福島の時は、福島民報、福島民友の両新聞にて大きく紹介され非常に勇気づけられました。

常磐高速道路も本年3月末には富岡まで供用開始されるということも聞いております。水産物ばかりでなく地場産品の消費拡大には集客力の高揚が必要であろうと一考いたします。

我が浪江町には素晴らしい観光資源も沢山あります。観光事業の開発と併せ水産物の消費拡大策についてご配慮賜りますようお願いいたします。

「人とのつながり」

故郷で幼児期から

権現堂字反町4

大谷 清子



元旦に、初老厄払いの同級会に出席致しました。つい昨日の事の様にああ

だった、こうだったと話す皆の笑顔を見ながら、無事終える事ができ、ほっとすると同時に、感慨深いものがありました。

皆の笑顔と対照的だったのが、正月中也流れる恐ろしいニュースです。

浪江幼稚園に勤務して18年、ここを背負っていく身としては、幼児期の教育の重要さに思い至ります。幼少期を、浪江町で良い事も悪い事も共に体験した「人とのつながり」が、その後の人生に何より大事なのでは、と。

少子化の昨今、夜どおし保育を受ける等、子供に良いとは思えないと、非難だけするのは簡単ですが、それでは何も始まりません。私も、微力ながら少子化対策基本法・次世代育成支援対策推進法に貢献しなくてはと「子育て相談」等に参加していましたが、如何せん、体力が必要ですが、園庭で遊んでいると、あつという間に子供がいっぱい(特に土日はつらい)。未熟ですが、「できる事から子育てを積み重ねよう!」と行動中です。同級会で感じた「人生の宝となる人間関係や地域に根づいた体験を子供達に」と決意をあらたにした新年でした。

編集後記

◇世の中は常に良い方向に向かっている。不景気も内政及び国際政治の紛糾も変化の中の過程と捉えれば、すべてよし。どう向き合うかが大事です。

◇12月定例会も新町長と3人の新人議員を迎えるという変化がありました。新町長には今後の町政の舵取りに大いに期待します。また新人議員の方々も大いに活躍してください。ともに町発展のため研鑽と議論を深めてまいります。

◇小高町との合併協議会は残念ながら白紙となりましたが、合併問題が白紙になった訳ではありません。新たなステージの始まりで、今後も地方分権を視野に入れた、継続可能な自治体の確立を町民の皆さんの理解を得ながら進めていくということですが。

◇自衛隊イラク派遣問題では、熱い議論が交わされました。地方議会においても、国際社会の中で日本という国がどのようなバランスの上に成り立っているのかをふまえて、国の将来を大いに議論することは良いことです。

◇今年も浪江町議会は町民のために働きます。

議会報編集特別委員会

副委員長 小黒 敬三